



人材の確保と自治体の協力がカギ 通院困難者の実態、患者会で把握

通院介護支援事業研修会が平成20年9月27日・28日、全腎協主催で東京・大森で開催されました。透析患者の高齢化が進み、通院困難者が増えている現在、送迎事業所を立ち上げるためのノウハウ等を議論するのが目的です。山田理事長がパネリストとして参加し「さわやか」12年の実績から得た知識や、厳しい意見を述べ活発な討論が行われました。

2日目のプログラムで約20分間、山田理事長の講演がありました。「さわやか」の歴史を中心に話をして好評でしたので、以下に記載しました。

「さわやか」が立ち上がる10年前、北九州市腎友会(当時)は、社会的入院の減少を目的として、北九州市に通院送迎事業を行うよう陳情・請願を繰り返しました。北九州市もそれに応えて事業所を開設してくれたのですが、毎週3回、早朝から通院する透析患者が利用するには十分とはいえませんでした。

そこで、患者会が運営するから助成をしてくださいというように方針を変え、運動をしたところ要望が通り、設立に向け大きく前進しました。また北九州市の透析医療をリードする2つの病院が事務

所用の部屋を提供していただき、行政・医療機関・患者を巻き込んで「さわやか」設立ができませんでした。

送迎事業を始めるにあたって「さわやか」ではボランティアさんに対しての方針をたてました。◇活動は週2回までにしよう(透析治療は生涯続くものなので、細く長く活動していただきたい)◇一人



のボランティアさんが、同じ利用者さんを、往き・帰りの両方送迎しないようにしよう。(ボランティアのために1日拘束することのないように)というものでした。

全国でいくつかの事業所が立ち上がっていた時に、全腎協から「他の事業所より稼働率が悪い」と指摘を受けましたが「さわやか」は回数にこだわらないという方針を崩しませんでした。これは今でも

Q&A

Q 「さわやか」の料金設定・ボランティアさんへの報酬・車の諸費用は負担するののか?
A 1.5km未満は三〇〇円・1.5km以上5km未満は五〇〇円・5km以上は1kmごとに一〇〇円です。ボランティアさんへは三〇〇円の時は一五〇円を、そのほかは二〇〇円を事務所にいただき、残りがボランティアさんの報酬ということとなります。また車はボランティアさんの持ち込み車両で、点検・任意保険はボランティアさんの負担です。

間違っていたと自信を持って言えることです。

また、ボランティアは常に一人で活動するものですから、事務局やボランティアさん同士の繋がりを考えて、年3回の研修交流会を行ない、毎月新聞を発行して情報を共有しています。

設立当初の助成金は2事業所で四二〇万円でした。現在は2事業所で一〇〇〇万円の助成金を頂いております。

ここでいいなのは、あくまでたなぼた式に頂いている訳ではなく、設立までに10年の歳月をかけ、何度も調査・陳情・請願を繰り返し、行政・議会を巻き込んだ結果だとい

講演後に質問が寄せられました

Q 山田さん以外の運営協議会委員の詳細を教えてください。
A 北九州市建築都市局・北九州市保健福祉局・北九州タクシー協会・北九州市障害福祉団体連絡協議会・北九州市高齢者福祉事業協会・九州運輸局福岡運輸支局・自交総連福岡地方連合会・西南女学院大学・北九州市介護サービス事業者連絡協議会・西鉄バス北九州(株)・日産自動車(株)九州工場の代表の方です。

Q どうして道路運送法79条

ではなくバリアフリー新法に移行していくのか?
A 道路運送法はバス・タクシー・貨物輸送のための法律なのですが、そこに福祉有償運送をはめ込みました。諸手続きはタクシー会社並みに複雑で、高齢者や障害者の移送にはそぐわない問題もでてきました。各自自治体で行っている街づくり協議会の中にバリアフリー新法を当てはめて、障害者が住みやすい街を作っていくように要望していこうと考えています。

うことです。

福祉有償運送で外すことができないのが運営協議会ですが、私もこの度委員になり、また北九州市が福祉に積極的ということもあって、事業所とは大変良い関係にあるといえます。

今後はバリアフリー新法を主導とした運用で、行政のまちづくり協議会の中に障害者の移送サービスを組込んでいく展開にしていかなければならないと計画中です。

また新料金体制で距離制になったので、通院だけに限定せず、外出支援としての活動も視野に入れていかねばならないと感じています。

まだ地域で温度差 患者への細かな 調査が必要

通院問題とは何だろうか？

事前調査（アンケート）による「通院問題」のイメージとして、

◇寝たきりなどで歩行困難な状態。通院には介助が必要で一人では通院できない。

◇介助が必要だが、介助者がいない。

◇家族が送迎できない。または送迎しているが大きな負担になっている。

◇タクシー代が高額で負担になっている。

◇公共交通機関はあるが、ステップが高くて利用できない。

◇気象・災害などに対応できない。

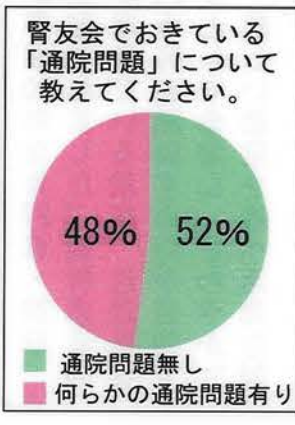
などの回答がでていた。さらに山田理事長が「病院の送迎バスを利用しているが、家の

腎友会とのつながりが重要に

前まで来ない、ステーション方式と言われるもので、バス停や、コンビニの前で乗降をする方式です。透析が終わったあと、そこから家まで帰る事が困難」という事例を紹介しました。

なぜ患者が患者を運ぶの？

資料によると参加者の中に現在のところ通院問題は無いとのアンケート回答が半数以上ありました。また、討議では「送迎は患者がすることではない」とこれは病院が送迎をしている地域も多く、特に不便を感じないとのことでした。



また「全国の事業所が半数近くに減少しているのに、全腎協が事業所を作るのを推進するのは何故か」という意見がありました。「さわやか」には事故につ



運転講習受講義務、登録車両に付した運行管理者の配置、運営協議会：。とても解りやすかったと好評でしたが「法律の壁が高すぎる」「これじゃ、無償じゃないとダメだな」との声があがっていました。

私たちはこのように取り組んでいます

お話で説明するよりも映像で紹介しようとの理事長の考えで「さわやか」は設立5周年の記念に作ったビデオ（約

活発な意見交換の場

★事業所立ち上げ時に調査をしていて、本当に困っている人は、ガマンをして声を出さないというのがわかった。思っている以上に送迎が必要と感じる患者は多いのではないかと感じる。

★現在は病院が送迎をしても診療報酬の引き下げでどうなるかわからない。

★送迎だけでなく、グループホームなども一緒に考えていきたい。

★患者の送迎を支えるというより、生活を支える事だと思つた。患者の事は知ってるつもりだったが、まだまだ隠れている問題はあつた。病院の送迎に頼っている場合ではない。

三〇分）を観ていただきました。スクリーンには、設立までの経緯や、送迎風景およびコーディネートの様子、それから関わっていたいた北九州市役所・病院長・全腎協常務理事のインタビューが映し出されました。また、東京で行われた研修会の映像が納められており、今回参加の方も数人、7年前の姿で登場され、会場が和やかになりました。閉会後に資料としてビデオが欲しいとの要望がありました。

★最初は無償で立ち上げて運営していても、次第に利用者さんの安全やボランティアさんの安心などを考えたとき、制約がたくさんあり不便に感じますが、福祉有償運送への転向を考えなければならなくなってきました。

★地域によって環境の違いや移動の距離は違います。

★県腎協は患者が何を必要としているのか、何を求めているのかを把握していなければならぬと思つています。

●●●●●●●●●●

たくさん意見がとびかき、2日間の研修会は盛会裏に終りました。